

プランターや植木鉢の土、どうしてですか？ 家庭の「古土」^{ふるつち}処理を模索する

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員 / クリーンむさしのを推進する会会長 志賀和男

都市部での家庭の古土問題とは

武蔵野市では、家庭のプランターや植木鉢などで使ったやせた土を、市役所やコミュニティセンターで年に3～4回受け入れて、近隣の造園業者の樹木育成園などで土に返して資源化する取り組みを長年行ってきました。しかし、回収場所や回数が少ないので、活用できる市民は限られています。

特に高齢の方から「花や野菜の栽培はしたいが、古い土をどうしたらいいのか困っている」という相談が街の生花店に寄せられ、その件数も年々増えている、という情報を得ました。

クリーンむさしのを考える会はこちら数年、その生花店（写真）と一緒にこの問題を考えてきました。



生花店がお客さんから回収した古土

生花店から聞いた家庭の古土処理問題は以下のようなものです。

- ① 顧客の高齢化により、古土の運搬が難しくなっている。運転免許の返納により運搬手段がなくなり、自転車では重量物の運搬は危険。
- ② 市の古土回収は混ざりもの（植物の根、石など）があると回収を受け付けられず、仕分けが必要となる。
- ③ 古土は集合住宅のみならず、戸建ての顧客からも寄せられる。例えば庭での雑草対策で防草シートを敷き、砕石などで処理している場合は、古土の置き場に困ることがある。
- ④ 新築戸建ての庭づくりで花壇を作る場合、庭土に混ざっているガラ（コンクリート片や石）を取り除く必要があり、ここでも古土処理が発生する。

都市型の街ではこのような問題があり、生花屋界では、これを放置すると顧客の土離れがさらに進むのではないかと、との危惧が出てきているようです。



ハナマーケットパディ
東京都武蔵野市中町 3-11-14
0422-38-9574 *木曜定休

土ごと発酵でやせた土を蘇らせる

これらの問題をを包括的に考えることは、当会としては裾野が広すぎると思いますが、古土そのものだけを取り上げ、生ごみを使って土を再生することならできそうだと、試みてみ

ました。

その方法は、長崎県佐世保市の「大地といのちの会」（理事長吉田俊道氏）が提唱している「土ごと発酵」で、生ごみと土を混和して発酵させ、やせた土を蘇らせる試みです。

生花店の裏の駐車場にプランターを並べて実験しましたが、結果は大変有効とわかりました。野菜を試験栽培した結果、十分に植物を育てられる土に再生したことが立証されたのです。

古土はこうした方法で蘇ることがわかりましたが、前述の多くの問題点と、いち営利企業（生花店）と市民のボランティア団体（クリーンむさしのを推進する会）は市から補助金を得て活動）とはどこまで協働して事業として進められるのか…。大小の壁が立ちふさがっていますが、引き続き、古土再生の事業化の道を模索して行きたいと思っています。

この問題について、会員のみなまさからのご意見、情報をぜひお寄せ下さい。